

笠岡工業高等学校グランドデザイン

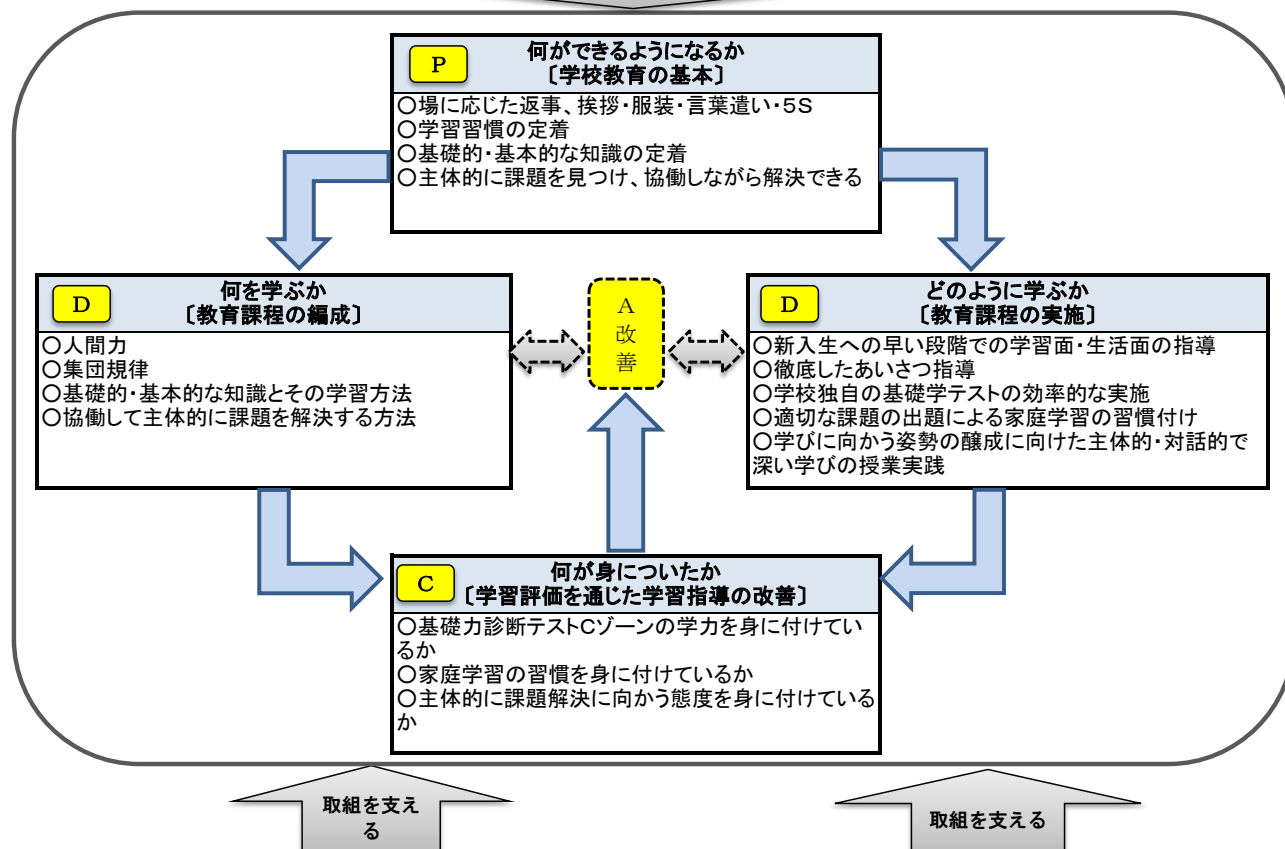
生徒の実態	内外の環境分析
○純朴な生徒が多い ○きちんとした挨拶がまだ十分でない生徒が若干いる ○基礎学力が不足し、学習習慣が身に付いていない生徒が一定数いる ○自己有用感が醸成されていない生徒が一定数いる ○主体性がない生徒が多い ○部活動に入っていない生徒が一定数いる	○県内だけでなく福山からも多くの求人がある ○一斉あいさつ運動等により近隣校園との繋がりが強い ○工業らしい安全意識の高い教員が多い ○iPad、プロジェクタ、Wifi等、ICT環境が整っている ○笠工テクノ工房等、専門3科の連携が取れている ○PTAの協力がある

《生きる力を資質・能力として具体化するための3つの柱》

①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等

学校教育目標	生徒一人一人が大切にされ、笠工生としての誇りと自信を身に付けることのできる学校
《育成したい生徒像》	○学校創立77年目を迎え、整備された学習環境を生かし、全ての教職員が自己の資質向上、専門性の深化に努め、生徒にとって魅力的な学校づくりを推進する ○地域社会のニーズと保護者の期待に応え、地域の教育力と連携を密にして、一層開かれた学校づくりを推進する
令和3年度重点目標	○社会人としてのマナーや確かな職業観・勤労観を持ち、意欲的で我慢強さや責任感を身に付けた人材を育成する ○基礎的な学力と教養を身に付けるとともに、豊かな専門的知識や技術・技能を有する人材を育成する

目標実現に向けた取組の方針



実施するために何が必要か (指導体制の充実、必要な支援、家庭・地域との連携・協力)	生徒にどのように支援するか (どのような配慮が必要か)
○きめ細やかな指導のための教員の意識 ○あいさつ指導や教科指導等に対する教員の共通理解と徹底した指導意識 ○主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けた教員研修(含PBL(課題解決型学習))	○教員間の情報共有(個別の支援計画を含む) ○安心して活動できる居心地のよい場づくり(生徒教員の人權尊重)